

笑顔のチカラ

～ ミラーニューロンと自分がされてうれしいことを相手にする ～

校長 本間 智英

2月1日（火）～4日（金）の4日間、新型コロナウイルス感染症の感染予防並びに感染拡大防止のため臨時休業の措置をとらせていただきました。この期間、子どもの学びの保障のためにタブレットを活用したオンライン授業を1日2～3時間程度実施しました。急なお願いにもかかわらず、全家庭とオンラインで繋がることができましたことに、感謝申し上げます。ありがとうございました。

写 真

6年生オンライン授業の様子
(2月4日)

さて、新潟県出身者も活躍した北京オリンピックが終わり、2週間が経ちました。アスリートが繰り広げるドラマに胸を熱くする日が多かったのは、私だけでしょか。印象に残るアスリートや場面向くたくさんありましたが、私が、特に印象に残っているのは、銀メダルを獲得した「カーリング女子日本代表（ロコ・ソラーレ）」の笑顔です。前回大会（平昌大会）では「そだねー」が流行語大賞になったり、「もぐもぐタイム」で食べるものが注目され品薄になったりと、競技以外でも大きな影響を与えました。

今大会では、4人の笑顔と豊富なコミュニケーションなどに注目が集まりました。競技前のカメラに映る笑顔、ミスやピンチであっても時折見せる笑顔、競技後のインタビューでの笑顔など、4人の笑顔がいつも映像で流れていた印象です（もちろんそうでない場面もありましたが…）。その笑顔を見て、表情が緩んでいる自分に気が付きました。そして、なぜか幸せな気持ちになっていました。だからこそ、このチームは、たくさんの人たちに応援され、メディアにも毎回大きく取り上げられるのではないか、と勝手に分析しています。

笑顔イラスト

人間の脳には、無意識のうちに人の言動を真似する鏡のような細胞（ミラーニューロン）があります。赤ちゃんを見ればわかるとおり、見たものを脳内で再現し、その後、実際に真似をして成長していきます。これは大人も同じです。

3学期に入り、子どもたちのあいさつがよくなりました。「相手より先に」を意識し明るいあいさつをする子どもが増えました。おうちの方のお声掛けのおかげです。ありがとうございます。また、学校でも、生活指導主任が、毎朝、児童玄関で一人一人の子どもに明るくあいさつをしています。「子どもにしてほしいことを、大人がやってみせる」ことの大切さを学びました。

これから私も子どもにしてほしいことを自ら行っていこうと思います。